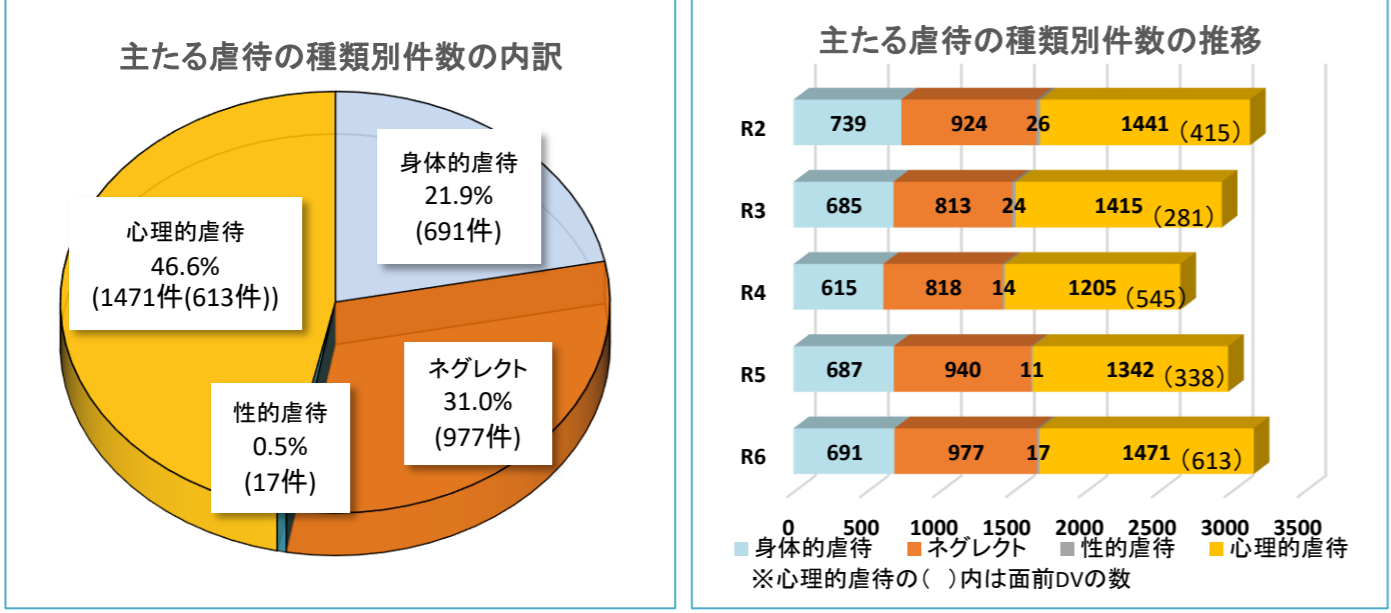
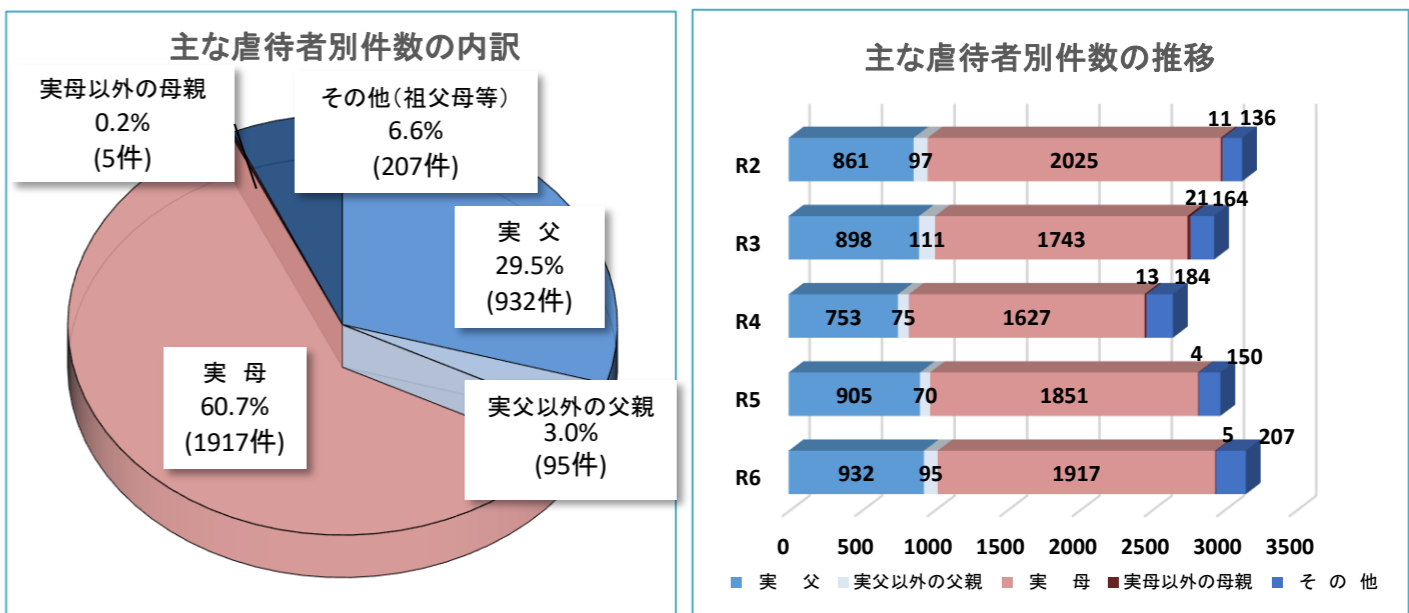


主たる虐待の種類



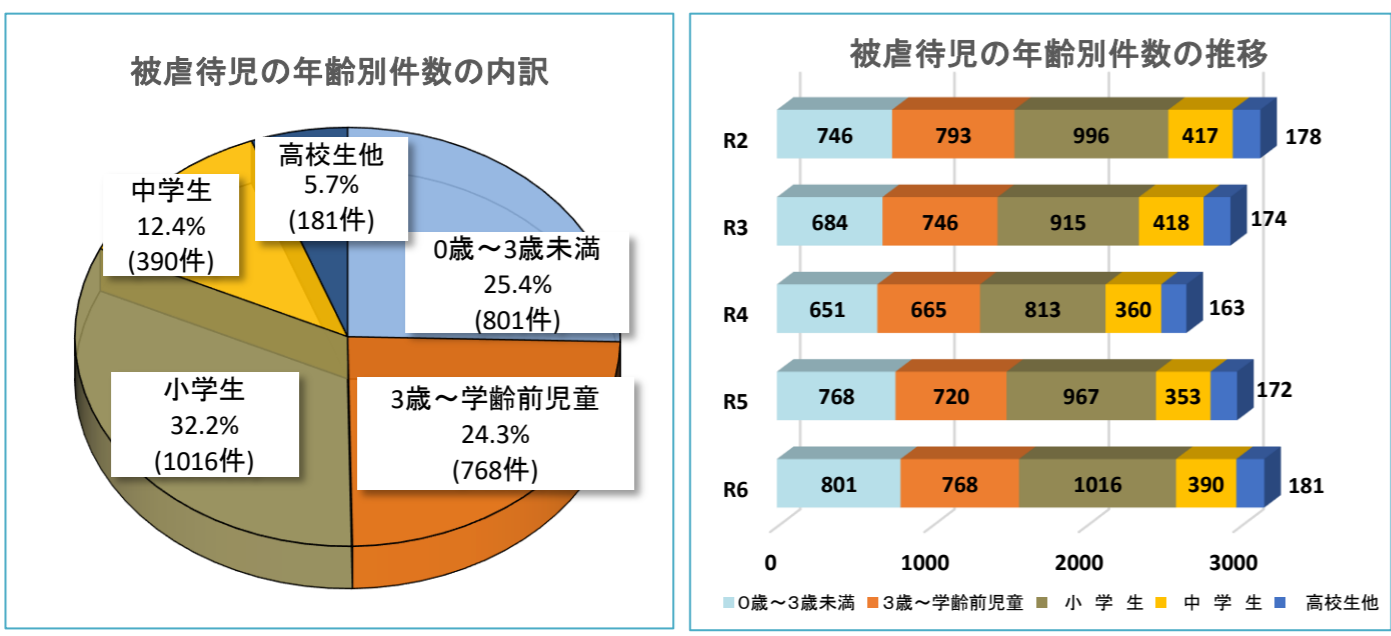
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。令和5年度と比較すると「心理的虐待」が129件増(9.6%増)、「ネグレクト」が37件増(3.9%増)、「身体的虐待」が4件増(0.6%増)、「性的虐待」が6件増(54.5%増)となった。「心理的虐待」が全体の約半数を占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者



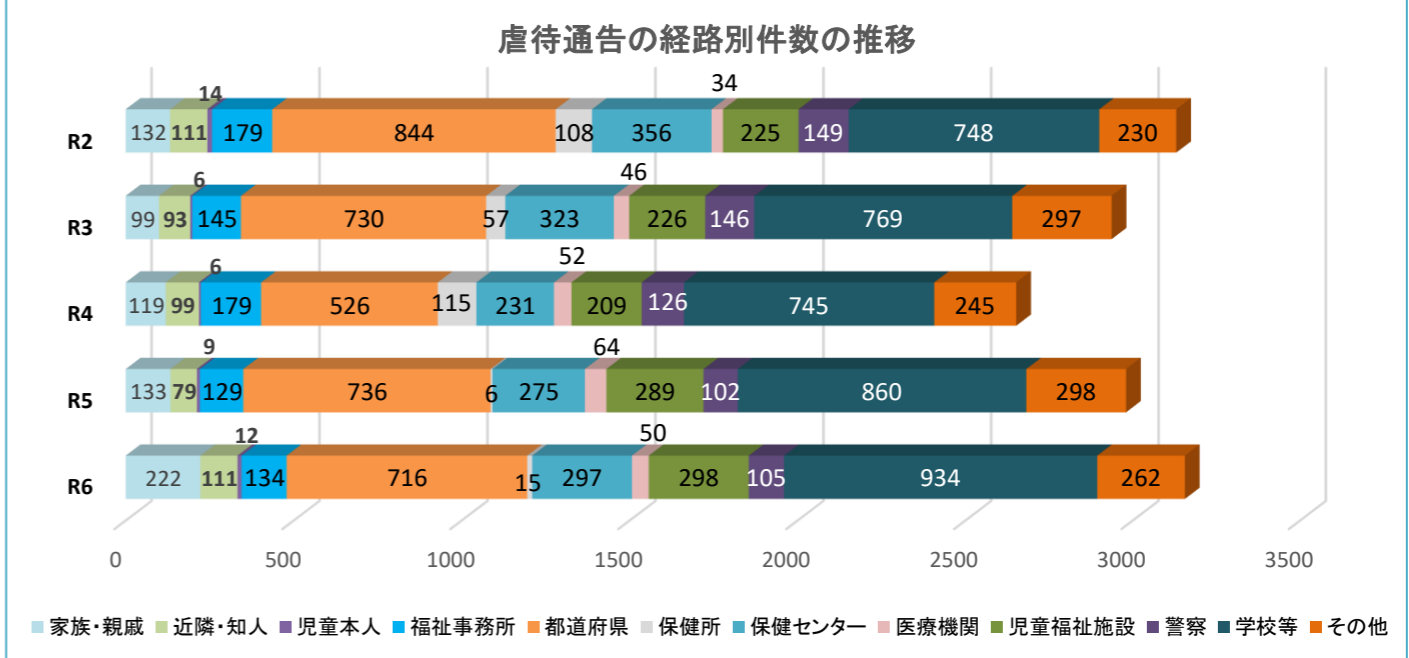
「実母」の件数が最も多く、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が27件増(3.0%増)、「実母」が66件増(3.6%増)、「実父以外の父親」が25件増(35.7%増)、「その他(祖父母等)」が57件増(38.0%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が33件増(4.3%増)、「3歳～学齢前児童」が48件増(6.7%増)、「小学生」が49件増(5.1%増)、「中学生」37件増(10.5%増)、「高校生」が9件増(5.2%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



「学校等」「都道府県」「児童福祉施設」の順に件数が多く、「家族・親戚」が89件増(66.9%増)、「近隣・知人」が32件増(40.5%増)、「学校等」が74件増(8.6%増)となった。